

2021 年度日本小児腎不全学会評議員会議事録

日時：2021 年 11 月 29 日（月）18：30～19：30

Web 開催（Zoom ミーティング）

出席者（敬称略）：秋岡祐子、芦田明、大田敏之、大山力、奥見雅由、賀本敏行、川崎幸彦、佐藤裕之、宍戸清一郎、杉谷篤、中西浩一、野口満、野島道生、幡谷浩史、服部元史、濱崎祐子、藤枝幹也、堀田記世彦（以上 18 名、欠席 5 名のうち委任状 4 名）、石塚喜世伸（WEB 会議サポート要員）

第 42 回日本小児腎不全学会野島道生会長の挨拶につづき、以下のように各議題が討議された。

議題

(1) 逝去会員の報告

伊藤克己先生が 2021 年 3 月 14 日に逝去されたことが報告され、黙祷が捧げられた。

(2) WEB 会議サポート要員の承認

東京女子医科大学腎臓小児科の石塚喜世伸が WEB 会議サポート要員として参加することが承認された。

(3) 新評議員の挨拶

佐賀大学泌尿器科の野口満先生、琉球大学小児科の中西浩一先生より挨拶があった。

(4) 会計報告・予算案

2019（令和元）年度および 2020（令和 2）年度の会計報告ならびに 2021（令和 3）年度の予算案が事務局より報告された。会計報告が適正なことが監事である香美祥二先生、宍戸清一郎先生の書面によって報告され、2019（令和元）年度と 2020（令和 2）年度の会計報告と 2021（令和 3）年度の予算案が了承された。

(5) 会員動向

2021 年 3 月 31 日現在の会員数は、正会員 623 名、名誉会長 1 名、名誉会員 22 名であると事務局より報告された。会員数は 2015（平成 27）年度より増加し、2018（平成 30）年以降は 600 名強でほぼ横ばいで推移していることが報告された。また、学会誌の筆頭著者と責任著者は会員であることを必須としていることが報告された。

(6) 評議員退任

白髪宏司評議員が定年に伴い退任となる旨が報告され、承認された。

(7) 名誉会員の推薦

白髪宏司評議員が名誉会員に推薦され、承認された。

(8) 評議員の推薦

藤丸季可先生（大阪市立総合医療センター小児総合診療科）と三浦健一郎先生（東京女子医科大学腎臓小児科）が評議員に推薦され、承認された。

(9) 次々期会長の選定

第 44 回会長（2023 年度）に野口満評議員（佐賀大学泌尿器科）が推薦され、承認された。

(10) 編集委員会報告

第 41 巻（2021 年 7 月発行）の掲載論文数について報告された。2020 年に学会が開催されなかったため、論文数が少なかったことが報告された。第 35 回から査読システムを導入していることと、看護師からの投稿も増えていることが報告された。

また、Renal Replacement Therapy 誌が小児腎不全学会、日本透析医学会、臨床腎移植学会、腹膜透析学会等の英文誌であり、随時投稿が受け付けられていることが報告された。

(11) その他

1) 優秀演題賞の応募・選考に関する申し合わせ事項が確認された。

2) 日本小児科学会専門医更新単位認定について

Web 開催の場合も教育講演やシンポジウム等に関して日本小児科学会の専門医更新単位の認定取得が可能であるが、3 か月前に講演動画や確認問題の準備をする必要があることなどからハードルが高く、今回単位認定は申請していないことが報告された。

3) 学会収支状況

年会費徴収と広告収入獲得の努力により、2015（平成 27）年度より連続して繰越金が 700 万円を超えていることが報告された。2015 年以降は筆頭著者と責任著者が会員でなければならなかったため、会員数増加にともない年会費収入が増加した。一方、近年広告費収入が減少傾向であるとともに、出版費用が増加している。このため、学会誌作成費用の削減（図表トレースの質を下げる）や、年会費の値上げ（ただし医師のみでコメディカルは据え置き）、ホームページの広告バナーについて検討することなど

が議論され、次回の評議員会での議案とする予定となった。

4) 会員構成

事務局より、看護師等のメディカルスタッフの会員が少なく、今後の検討課題であることが報告された。また、外科系の新評議員の推薦が必要であることが報告された。

(12) 次期会長の挨拶

第43回会長の秋岡祐子評議員より準備状況が報告された。

2022年12月8日(木)～12月9日(金)、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京)にて開催予定。

日本小児腎不全学会事務局

議事録作成

服部元史

議事録署名

野島道生

秋岡祐子

印

印

印